

令和 元年 12 月 12 日
December 12, 2019

大学院学生各位
To All Graduate Students

令和元年度
基盤医学特論 開講通知
Information on Special Lecture (TOKURON) 2019

題目：フッ化ピリミジン系抗腫瘍薬の開発歴史とその作用機序

Title: Development and mechanism of action of fluoropyrimidine-type anticancer drugs

講師：北尾 洋之 先生

九州大学大学院薬学研究院 抗がん剤育薬共同研究部門 教授

Teaching Staff: Dr. Hiroyuki Kitao, Professor

Department of Molecular Cancer Biology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences,
Kyushu University

日時：令和 2 年 1 月 30 日（木）16:30～18:00

Time & Date : 16:30～18:00, January 30th (Thur), 2020

場所：環境医学研究所北館セミナー室

Room: N-201 (Seminar Room), North Building, Research Institute of Environmental Medicine
(Higashiyama Campus)

言語：日本語 Language: Japanese

{特論の概要}

1950 年代に創成された 5-フルオロウラシル (5-FU) は世界で初めての人工合成による抗腫瘍薬である。5-FU に代表されるフッ化ピリミジン系抗腫瘍薬は、その作用機序に基づく創薬や育薬を重ね、60 年以上経った今もがん治療に貢献し続けている。さらに、2014 年に本邦で上市された FTD/TPI (開発コード：TAS-102; 販売名：ロンサーフ®) は、5-FU とは作用の異なる新しいタイプのフッ化ピリミジン系ヌクレオシド型抗腫瘍薬として現在全世界で販売承認を受け、その使用用途も広がっている。本講演では、はじめにフッ化ピリミジン系抗腫瘍薬の開発の歴史を紹介し、後半は FTD/TPI の作用機序に関する基礎研究から得られた知見とその臨床への応用を実現した橋渡し研究について紹介したい。

Matsuoka K et al. *Mol Cancer Ther.* 14:1004-13. 2015、Kitao H et al. *Sci Rep.* 6:25286. 2016、Nakanishi et al. *Sci Rep.* 7:16969. 2017、Edahiro et al. *Mol Cancer Res.* 16:1483-1490. 2018、Kataoka et al. *Sci Rep.* 9:7964. 2019、Kataoka et al. *bioRxiv* 2019. doi: <http://doi.org/10.1101/764522>.

関係講座・部門等の連絡担当者：環境医学研究所 ゲノム動態制御分野(分子機能薬学) 増田雄司(内線 3871)
(鶴舞・大幸地区からは、85-3871)

Contact: Dept. of Genome Dynamics, Research Institute of Environmental Medicine.
Phone: ext. 3871 (or 85-3871 from Tsurumai & Daiko campuses)

[注意] 事前の申込みは不要です。

Notice: No registration required.

医学部学務課大学院掛

Student Affairs Division, School of Medicine